

博士学位論文要旨

論文の題目：中国東北地域の振興と新たな工業化に向けた取り組みに関する研究

西南学院大学大学院経済学研究科経済学専攻

20DF001：宋維美

中国東北地域の振興は、今の中国政府にとっては最も重要な課題の一つである。遼寧省、吉林省、黒竜江省からなる中国東北地域では、大連を中心とする一部の地域が対外開放政策の恩恵を受けてきたが、全体的にみれば、東北地域は改革・開放の矛盾が集中的に現れてきた地域になっている。1978 年末以来、経済改革、対外開放の推進により、中国の発展の軸が内陸部・東北地域から沿海地域及び華南、華東地域に転換しており、東北地域は次第に全国の中における比重が下ってきた。この東北地域の停滞現象は、一時期は「東北現象」といわれた。

中国の東北地域は資源が豊かで、農業、工業の立地条件に恵まれた地域という特性を生かして、中国の工業化、とりわけ重工業優先発展政策を牽引した地域である。東北地域は重工業国有企業の改革（民営化）と失業問題、エネルギー問題、または社会保障費など多方面の課題に直面している。中国政府は 2003 年 10 月に、遼寧省、吉林省、黒竜江省に対して、「東北地域等旧工業基地振興戦略」（以下「東北振興戦略」を略称する）を提起した。東北振興戦略が展開されて以来、一定の成果があったと言えたが、東北地域に抱えた多くの問題は改善されなかった。まず、東北地域は多くの資源立地型都市であり、その主導産業はほとんど資源に頼って生存し、資源枯渇、環境悪化など一連の問題に直面し、そのままでは、その衰弱に向かうのは必然的であった。東北地域の伝統的な工業のパターンは経済を衰退させる根源である。資源の枯渇問題を解決しなければ、東北振興策がいくら実行されても東北地域経済の衰退は改善されないだろう。第二に、東北地域の若い世代の人口はすでに他地域に流失し、1 年の純流出は 30 万人である。東北地域の流出人口は一般農民工ではなく、多いのは青年人口、高校以上の高学歴人口である。現在の東北地域の企業は全国から労働集約型企業の移転を受け入れ優位があるとは言い難く、産業の優位も明らかではない。東北地域は中国の主要な穀物生産地域の一つであり、豊富な観光資源もあるが、1930 年代以降に蓄積された鉱産技術の基盤を人々に無視できないため、東北地域の活性化においてこの道は放棄できない。今の段階では、中国は非効率・資源型産業構造からの転換に努めている。しかし、技術の急速な発展に伴い、SDGs、環境保護との両立を強

調する一方で、今、伝統的な工業化と新たな工業化の調和にも注意を向けるべきである。

そこで、本稿では、東北地域の現状と東北振興戦略の実施過程を説明し、今進行中の東北振興戦略の展開ならびに、新たな工業化戦略を通じて、東北地域工業の競争力変化の主な原因と根本的な原因を説明する。分析結果を通して、新たな工業化に向けた取り組む必要性を説明する。特に、瀋陽経済区の発展を例にして、新たな工業化は東北地域経済発展の必要性と東北地域の資源立地型都市への転換の重要性を考察したい。

まず第一章では、中国の改革開放前、国家優遇政策の下で、東北地域の旧工業基地の発展歴史と現状を説明して、東北地域の工業化の歴史と現状を述べ、東北地域が置かれている工業化段階を判断してこそ、東北地域が新たな工業化の道を歩むことが現実的な選択であることを理解できることを論じる。

第二章では、東北振興政策を採る必要性、及び新たな工業化を東北振興政策の実施のための重要な手段として位置つける必要性について説明し、同政策の実施における問題を提起する。本章では先行研究を纏めながら、中国の東北地域は中国の沿海部都市と比べて、経済成長速度はなぜ遅れたかを分析し、今までの東北振興政策と同政策の実施の進捗状況を説明する。そこから、東北振興の必要性を明白することにする。

第三章では、新たな工業化が東北地域で実施されている状況及び瀋陽経済区の発展進展と成果を紹介する。

第四章では、新たな工業化の定義と発展目標について説明し、過去から積み重ねてきた資金や技術基礎を持っている東北旧工業基地は資金調達に問題が大きいと考えているが、新たな工業化を通じて、東北地域工業の競争力変動の主な原因を説明することにする。最後に前述各章の分析結果を通じて、新たな工業化に向けた取り組みを推進することを考察することにする。